



三菱ランサーエボリューションX
国内トップカテゴリーで早くも勝利
www.ralliart.com

The New Generation of Mitsubishi Motors Motorsports

新開発ディーゼル ついに実戦投入。

三菱自動車モータースポーツ活動 新時代へ



R
A
L
L
I
A
R
T
J
O
U
R
N
A
L

新開発 ディーゼルで 狙い撃つ

三菱自動車、2009年ダカールラリーに向け新開発ディーゼルトーボエンジンで発進

三菱自動車のモータースポーツ活動が新たな時代へと大きく踏み出した。開発中の3ℓ V型6気筒ディーゼルトーボエンジンが、ついに実戦デビューを果たしたのだ。

現在のクロスカントリーラリーカーの車両規格は、ガソリンエンジンよりもディーゼルエンジンにとって相対的に有利な内容となっている。その上で、三菱自動車チームはガソリン車でダカールラリー7連覇を遂げてきたのである。一方、愛知県岡崎市にある三菱自動車乗用車技術センターでは、まったく新しいクロスカントリーラリー用ディーゼルトーボエンジンの開発を進め、昨年6月には走行テストを開始。そ

れついに実戦テストの段階を迎えた。

デビュー戦となったのは、4月20～26日にハンガリーとルーマニアを舞台に行われたセントラルヨーロッパラリー。新たに創設されたダカールシリーズの初開催イベントで、三菱自動車、フォルクスワーゲン、BMWの主要ワークスが出そろった。ここに三菱自動車は、ダカールラリー同様にチーム・レブソル三菱ラリーアートとして4台のパジェロエボリューションを投入。うち1台がディーゼルトーボ搭載車で、テスト走行の大半を担当してきた日本のエース、増岡浩がそのステアリングを握った。残念だったのは、大会3日目に予想外のレーシングアクシデントが発生し、これからペースを上げていこうとしていたところでリタイヤを余儀なくされたこと。ただし、ラリー後の増岡は意外なほど落胆していなかった。スタートからの2日間ですでに十分な手応えを得ていたからだ。「自分がテストしてきたエンジンですけど、それにしてもすごいですよ、最新のレーシングディーゼルというのは。いわゆるディーゼルの既成概念とはかけ離れたレスポンスの鋭さで

ず。すでにパワー、トルクとも目標をクリアしていますが、実戦における戦闘力の高さも確認できました」

増岡が今回走らせた車両は、自然吸気ガソリンエンジン用に設計された従来のパジェロエボリューションにディーゼルトーボエンジンを搭載した、いわば暫定仕様。南米で開催される2009年ダカールラリーでは、ターボやインタークーラーといった増加する補機類や熱量に対応した新型車両で出場する。さらに三菱自動車では、低公害化につながる低圧縮比燃焼や高圧燃料噴射といった新世代のディーゼルエンジン技術を培うとともに、技術パートナー各社の協力のもと、非食物系バイオ燃料や高効率冷却システム、低エネルギーロスタイヤといった、モータースポーツにおける環境への取り組みを実行していく。増岡は言う。

「いずれにせよ、僕らが基準を定めているのは2009年のダカールラリーでのデビューウインです。さらに煮詰めていく時間がありますし、専用設計の車体ももうすぐ出来上がりテストを始めます。この先が楽しみでなりません」



三菱自動車としては初めて手掛けるレーシングディーゼルだが、開発を進めてきた岡崎のエンジニアたちは万難を排して初陣に臨んだ



フルラインナップでセントラルヨーロッパに乗り込んだチーム・レブソル三菱ラリーアート。デビューを迎えたディーゼルトーボは注目の的、育ての親とも言える増岡は誇らしさとやる気に満ちた表情を浮かべていた



チームの志気の高さは相変わらず。ラリーではガソリンエンジン搭載車で出場したステファン・ペテランセルが最後まで優勝を争った



治安問題で開催中止となり今年1月のダカールラリーを走れなかったアウトランダーのサポートカーも登場。快適な移動を提供した

FIAクロスカントリーラリーワールドカップ第2戦トランスイペリコラリー

ディーゼルトーボ搭載車、ラリー中盤トップを快走!

5月21～25日に開催されたトランスイペリコラリーで、2度目の実戦に出場したディーゼルトーボ搭載車がラリー中盤にトップを快走した。イベリア半島でのこのラリーで同車を駆ったのは、スペイン出身のホアン・ナニ・ロマ。車体は暫定仕様であるにもかかわらず、大会2日目に総合トップを奪うと、3日目もその座を堅持。4日目の川渡りの際パワーステアリングポンプの駆動ベルトが外れる

アクシデントに見舞われて後退したものの、まだ開発途上にある三菱自動車製ディーゼルトーボのポテンシャルの高さを見つけた。また、総合優勝はガソリンエンジン搭載車で出場したリュック・アルファンが獲得した。なお、三菱自動車チームは7月17～20日に開催されるバハ・スペインにも参戦し、新型エンジンのさらなる熟成を図っていく。



MITSUBISHI
LANCER EVOLUTION X

三菱ランサーエボリューションX
全日本ラリー選手権&スーパー耐久で早くも勝利

攻撃開始



JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP

世界初のエボリューションXによる優勝を全日本ラリー選手権第2戦で果たした奴田原選手。第3戦でも2位となり、堂々ランキングトップに立つ。並行して参戦しているPWRCでは8月末のニュージーランドからエボリューションXを投入し、続く10月末のラリージャパンにつなげたい考えだ

優れたバランスを武器にエボX世界初優勝を達成



SUPER TAIKYU SERIES

昨年はエボリューションIXで全戦全勝を取った中谷選手/木下選手組。鈴鹿サーキットでの開幕戦からエボリューションXで優勝争いを繰り広げ、僅差の2位に。そして昨年は格上のクラス1車両を破って総合優勝を遂げた仙台ハイランドでの第2戦では見事優勝。シリーズリーダーに浮上した

過酷な耐久レースでも冴え渡るS-AWCテクノロジー

ランサーエボリューションXがモータースポーツシーンについて登場。そして早々と、全日本ラリー選手権とスーパー耐久という国内トップカテゴリーの双方において優勝を果たしてみせた。

昨年10月より発売されたランサーエボリューションXは、翌11月にはJAFに車両登録されて国内格式以下の競技への出場が可能に。そして今年の全日本ラリー選手権に1台、スーパー耐久には2台が、いずれもシリーズ開幕戦から参戦を開始した。

記念すべきエボリューションX初優勝を飾ったのは、全日本ラリー選手権でタイトル奪還を目指す奴田原文雄選手。4月27日に愛媛で行われた第2戦久万高原ラリーでオープニングステージからトップに立つと、その座を一度も譲ることなく逃げ切るという、まさに完璧な勝利だった。

「エボリューションXのコーナリングは本当に速い。それでいて姿勢の乱れが少ないので、ドライバーとしては存分にアクセルを踏んでいけます。重量バランスが良く、車体剛性が高く、その分サスペンションがよく動いてタイヤの接地性が高い。ECUはまだ純正のままなのですが、パワーはすでに以前のエボリューションIXなみに出ています。ギャボックスも純正のままだったり、ラリーカーとして煮詰めていくのはまだまだこれからなのですが、初期段階から相当なハイレベルのマシンなので心強いですね」と奴田原選手は言う。

エボリューションXはスーパー耐久でも魅せた。5月17日に500kmで決勝レースが行われた第2戦仙台ハイランドで中谷明彦選手/木下隆之選手組が快勝。やはりコーナリングスピードの高さが際立つ走り、ピットストップで順位を落としてもすかさずトップを奪い返す力強さを見つけた。

このスーパー耐久仕様車とて、ギャボックスは純正の5MTであるほか、ACDはもちろん、AYCもそのまま使用。三菱自動車が誇るS-AWC(スーパーオールホイールコントロール)の有効性を、過酷な耐久レースにおいても実証している。

なお三菱自動車ではエボリューションXのFIAグループNホモロゲーションを7月1日付けで取得予定。PWRCをはじめとする国際レベルの競技にもいよいよ新世代エボリューションが登場する。



スーパー耐久開幕戦からやはりエボリューションXを投入した峰尾恭輔選手/鈴木宏和選手組。中谷選手/木下選手組がGSRベースであるのに対し、軽さを重視してRSモデルをベースに選択している

KATSU、開幕2戦は天国と地獄

開幕戦ニューカレドニアで2年ぶりのAPRC優勝をマーク



「マシンもタイヤも相当進化した実感が」と語っていたKATSU。2年ぶりのAPRC優勝を果たし、王座を目指して力強く戦い始めた



昨年10月のWRCラリージャパンではPWRCの強豪を完全に抑え込んでグループN優勝。強さと存在感を世界に示した田口勝彦が、レギュラーシリーズとしては今年もAPRCに参戦する。所属するのはインド最大のタイヤメーカーであるMRF社が支援するチームMRFタイヤ。マシンは完熟の域に達した三菱ランサーエボリューションIXで、KATSUとしては、同一体制で同一シリーズに臨むのもこれで5年連続。また、過去2年KATSUの前に立ちふさがってきたスバルのコーディ・クローカーが今年も最大のライバルとなる。

今年のAPRCは全7戦が開催され、このうち事前に指定した6戦分のポイントでシリーズが争われる。そして4月に行われた開幕戦ニューカレドニアは、クローカーが選手権ポイント獲得イベントから外して出場してこず。となれば、シリーズチャンピオンを目指すKATSUとしては優勝以外に目標はない。他方、現地での事前テストが悪天候に阻まれるなど、障害も少なからずあった。しかしラリーが始まってみれば、KATSUは計15カ所のステージのうち10カ所でトップタイム

を叩き出して圧勝。APRCでは意外にも2006年のこのニューカレドニア以来となる勝利を挙げ、実質的にぶっつけ本番となったハンディさえ軽く吹き飛ばすほどの力強さと安定感を見せつけた。

最高のシーズンスタートから1カ月後、第2戦の舞台はオーストラリアのキャンベラへ。そして今度は苦い展開がKATSUを待ち受けていた。わずか2本目のステージで電気系のトラブルに見舞われリタイヤに追い込まれたのだ。

再出走を果たしたDAY2でKATSUは、このキャンベラから参戦を開始した地元出身のクローカーに対して互角以上の走りを見せ、この日行われた9ステージ中6カ所でトップタイムをマーク。途中、センサーの不調に見舞われて5秒ほど失ったことが響いてDAY優勝は1秒差で逸したものの、今年のKATSUとチームMRFタイヤがこれまで以上に強力な存在となっていることを印象づけた。

なお、チームMRFタイヤは今年も3台体制でシリーズに参戦。新たにKATSUのチームメイトとなった元オーストラリ

ア選手権チャンピオンのスコット・ベッターは開幕2戦でもリタイヤとなる苦しいスタートに。また、昨年もチームMRFタイヤからAPRCに挑んだインド人ドライバーのガウラ・ジルは、6月にニュージーランドで開催される第3戦ワングレイから出場する。



チームMRFタイヤで初のAPRCシリーズ参戦を迎えたベッター。開幕2戦は不運な結果となったが、キャンベラではクローカーに食らいつくなど、その速さはかなりのもの

アルゼンチンでアイグナーがPWRC初優勝。奴田原文雄も5シーズン目をスタート



これまでは、速さは見せながら結果を残せなかったアイグナー選手だが、難易度の高いアルゼンチンで快勝。これを契機に飛躍を果たすか

今シーズンのPWRCでは三菱ランサーエボリューション勢の強さが際立つ戦いが続いている。開幕戦スウェーデンでのユホ・ハンニネン選手に続き、第2戦アルゼンチンではアンドレアス・アイグナー選手が優勝。PWRC2年目で初の勝利を飾った。2位には地元主催者推薦枠からの出場ながらPWRC参戦経験もあるセバスチャン・ベルトラン選手が入り、ランサー勢による1-2フィニッシュに。また、このアルゼンチンが今年のPWRC初戦となった奴田原文雄選手は、初めて経験するビレリ社製ワンメイクタイヤに走りながらセッティングを合わせていく戦いを余儀なくされたが、着実に走り切って4位でゴール。上々のシーズンスタートを切っている。なお、このPWRCを頂点とするWRCのグループNカテゴリーにおいて、ランサーエボリューションは6月の第7戦アックロポリスまでに開幕7連勝を達成。この記録がどこまで続くかも注目される。



「きちんとラリーを戦っていく」という今年掲げたテーマを確実に実践している奴田原文雄選手。ワンメイクタイヤでの初戦で4位に入賞

砂漠への招待状。 vol.13

僕が仕上げてきたディーゼルターボでの新しい挑戦が始まりました。

ついにディーゼルターボエンジンが実戦を走り出しました。三菱自動車にとって競技用のディーゼルエンジン開発は初めての事。試行錯誤の連続であったことは確かなんですけど、開発スピードはものすごいものでした。本音を言えば、今年1月に行われるはずだったダカールラリーで使いたかったくらい。フォルクスワーゲンが5年をかけて到達したレベルに、すでに肩を並べていると自負しています。長年ラリーをやってきた三菱自動車の技術力は伊達じゃない。改めて実感しています。

僕が任されたデビュー戦のセントラルヨーロッパラリーでは不運なレーシングアクシデントが起こってしまって、さあこれから、というところでリタイヤしなければならなかったんですけど、手応えという点では十分なものがありました。テストではガソリンエンジン車と同じコースを走らせたりもしてきましたが、100km/h以上での加速が明らかに違う。「こんなエンジンを使っている連中と俺たちは戦ってきたのか!?」という気分です。

僕が出場したセントラルヨーロッパ、それからホアン・ナニ・ロマが乗ったトランスイペリコの出場車両は、本来は自然吸気エンジン用に設計された車体に、言ってみれば強引にディーゼルターボを搭載したものです。補機類から何から違うので、車体のバランスが全然違ってきます。ですから、まさに実戦テストとして出たわけなんですけど、それでもトランスイペリコではガソリンエンジン車と互角以上に走って、実際ロマがト

ップを走ってみせた。これで専用設計の車体が完成し、エンジンの熟成もさらに進めばどうなるか。楽しみでなりません。

車体という点では、本命である2009年のダカールラリーの開催地が南米になったことで、その対応もしていかなければなりません。これまでのマシンは、アフリカを走ることを前提に、特に砂丘での走破性というものを重視してきたわけなんですけど、新しい開催地のステージのメインはWRCのようなグラベルになるようです。となれば、車高を下げながらも接地性を上げていき、車両の重量もギリギリまで削っていかねばならない。とにかく、さらにシビアな戦いになっていくことは間違いないでしょう。

でも、僕らはダカールラリー最強のチームである誇りを持つ



三菱ディーゼルのロゴが描かれたマシンを実戦で最初に走らされたのは光栄でした。2009年ダカールではこれで勝ちにいきます!

ています。連勝記録もさらに伸ばしていくつもりです。ホント、期待してください!

Profile: 1960年3月13日、埼玉県生まれ。1987年から三菱自動車チームよりダカールラリーに参戦。2002年、2003年と2年連続で総合優勝を飾っている世界を代表するプロフェッショナル・クロスカントリー・ラリードライバー



田口勝彦 連載コラム

KATSUの | い | つ | だ | っ | て | エ | ボ | リ | ュ | ー | シ | ョ | ン |

今シーズンこそは「いい勝負」ができそうです。

やりました! 今年もAPRCにシリーズ参戦することになったわけですが、開幕戦のニューカレドニアでばっちり優勝することができました。

本番用のラリーカーに乗って競技スピードで走るのは去年11月のチャイナラリー以来だったのに、天気が悪くて事前テストがちゃんとできなかったので、最初のステージを走るまでは不安もあったんですよ。でも、最初のスーパーSSは2本ともトップタイム。本格的な山

岳ステージに入ってもSS3からSS7まで5連続ベスト。自分で想像していた以上にいい走りできて、「これはイケる!」と思いました。

ところが!? SS9のフィニッシュ手前で突然エンジンがストップ。ステージの残り約500mは惰性で走り切れて、リエゾンで配線をいろいろチェックしているうちに何とかエンジンが復活。その後は、エンジンがまた止まるんじゃないかってヒヤヒヤものでしたけど、何とか大丈夫でした。

このDAY1を終えて後ろとは43秒の差。でも、リズムを崩したくなかったので、DAY2もいつもどおりアタックすることにしました。そしてフィニッシュ。DAY1、DAY2ともにトップだったので、フルポイントの16点をゲットできました。

そして第2戦キャンベラ。こちらについてはうれしくない報告をしなければいけません。ニューカレドニアはスキップしたコーディ・クローカーが出てき

たので、最大のライバルとの直接対決が楽しみだったんですけど、そうなる前にリタイヤに追い込まれてしまいました。SS2でエンジンが完全に止まってしまったんです。原因は、燃料ポンプにつながるリレーボックス内の配線が焼き付いたためでした。

正直ヘコみましたね。シリーズのこの先を考えると、ここでのリタイヤは本当に痛い。でも、チームのみんなが必死でマシンを直してくれて、その姿を見てやる気が甦ってきました。そしてDAY2では、コーディの得意なステージでほぼ互角に戦うことができて、DAYポイント2点を獲得。今年のマシンとタイヤ、そして自分自身の走りに改めて自信を持つことができました。このパッケージなら、今後のイベントでもコーディといい勝負をしていけると断言できます。

次の戦いはワングレイ。ニュージーランドのラリーに出るのは実は久しぶりなんですけど、以前のWRCで使われていたステージが中心になるようで、かなり楽しみにしています。そしてその先には、7月12~13日に行われるラリー北海道が待っています。帯広でまたみなさんとお会いできればうれしいです。

■田口勝彦オフィシャルホームページ
http://www.ralliart.co.jp/katsu/

Profile: 1972年2月7日、岡山県生まれ。22歳より海外に渡り、ランサーエボリューションで国際ラリーの経験を積んできた。1999年にはAPRC総合チャンピオンを獲得し、2007年WRCラリージャパンではグループN総合優勝を果たしている。株式会社ラリーアート社員



実はAPRCでの優勝は2006年のニューカレドニア以来だったんですね……そういうことは、本人はすっかり忘れてたんですけどね(笑)

ALL JAPAN GYMKHANA CHAMPIONSHIP



僅差の戦いが続くSA3クラス。昨年は不本意なシーズンとなった川脇選手だが、得意の名版で行われた第2戦で快勝を飾った

■全日本ジムカーナ選手権 異変発生 of N4クラス SA3クラスは三つ巴の激戦に

三菱ランサーエボリューションが該当3クラスで常時90%以上のシェアを占める状況が今年も続いている全日本ジムカーナ選手権。第3戦終了時点のN4クラスとSA3クラスの各ランキング上位10位以内は、1台を除く全車がランサーという圧倒的な様相となっている。中でも、最もノーマルに近い状態の車両で争われるN4クラスでは、4年連続王者の茅野成樹選手が開幕3戦を終えてもポイント獲得は開幕戦の3位のみという異常事態。対して、ランサーに乗り換えて2年目の菱井将文選手が第2戦&第3戦と連勝しシリーズトップに立っている。エンジン吸排気系等の改造が認められるSA3クラスでは、川脇一晃、津川信次、西原正樹の3選手が開幕3戦の表彰台を分け合い続け、各々1勝ずつマーク。しかも優勝と2位の差が0.2秒以内という極度に僅差の戦いが続いている。一方、スリッパイヤを装着する競技専用改造車両で争われるSCクラスでは、6年連続王者の谷森雅彦選手が開幕3連勝。自身が持つ19連勝の更新に意欲を見ている。



昨年、SA3クラス1年目ながらもタイトルまで4ポイント差に迫ったシリーズ2位を得た津川選手。今シーズンは幸先よく開幕戦を制し、昨年終盤から数えて3連勝をマークした



SA3クラスのディフェンディングチャンピオンである西原選手。開幕2戦は連続3位ながらも本人は今ひとつの表情を見せていたが、第3戦SUGOでは2本目での逆転優勝を果たした



昨年からランサーに乗り換えた菱井選手は2位に4回も入ったものの勝利には手が届かず。セッティングを煮詰めてきた今年は序盤3戦で2勝を挙げ、5年ぶりのタイトル獲得を目指す



昨年は二度土を着けられたSCクラスの谷森選手だが、「おかげで切れました」との言葉どおり、今年は開幕3連勝。全戦でハコ車クラスでの最速タイムをマークし続けている

ALL JAPAN DIRT TRIAL CHAMPIONSHIP



昨年は悲願の全日本初タイトルを獲得した吉村選手は、開幕戦では完勝。第2戦は2本目に逆転を許し悔しみにまぎせていた

■全日本ダートトライアル選手権 N3クラスは前年王者の吉村選手が開幕戦を制してシーズンを好スタート

全日本ダートトライアル選手権でもジムカーナ同様に三菱ランサーエボリューションへのユーザーからの支持は厚く、ベース車両の基本性能が特に重要なナンバー付きのN3クラスとSA2クラスの第2戦終了時のランキング上位10位以内は1台を除く全車がランサーという状況。開幕戦丸和でのN3クラスとSA2クラスでは、ともに前年王者の吉村修選手と荒井信介選手が優勝を収めたものの、両選手ともに第2戦大牟田では連勝ならず、N3クラスでは田崎克典選手、SA2クラスでは北島広実選手が勝利。これらの選手が両クラスのチャンピオン争いをリードする形となっている。一方、改造無制限のDクラスでは、昨年まで「ミラージュ・ルック」の車両で戦ってきた河内渉選手が新たにランサーエボリューションを投入して開幕2連勝を飾ったほか、開幕戦では女性ドライバーの山田ひとみ選手が約4年半ぶりの3位入賞を果たした。なお、ナンバーなしの改造車によるSC3クラスでは炭山義昭選手が連続2位で、シーズン中盤戦以降の巻き返しを誓っている。



開幕戦は2位ながら、吉村選手に1秒以上の差をつけた田崎選手は、地元で開催された第2戦で逆襲。タイヤ選択が的中した2本目のアタックで昨年の第5戦以上の勝利を得た



昨年、SA2クラスを1年目にして制した荒井選手。ホームコースでの開幕戦では他を寄せ付けない走りで行った優勝を飾り、通算では4年連続となる王座に向け先発のよいスタートを切った



ダートトライアル転向4年目となる北島選手は、1年前に全日本初優勝を飾ったモビリティおおむた(三井オートスポーツブランドから改名)で再び勝利し、タイトルへ力強く前進



日頃から「楽しくやればいんです」と繰り返す河内選手。長年使用してきたモビリティおおむたのマシンからニューマシンのスイッチした効果が早速現れ、Dクラス開幕2連勝を達成



新設のJN1.5クラスで開幕3連勝の神選手。ラリーの活性化を目指す同クラスを、ラリーアートの全力で支援していく

JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP

■全日本ラリー選手権 注目のJN1.5クラスでコルトが3連勝

全日本ラリー選手権では今年、活性化を目指して排気量1401~1500ccの2輪駆動車を対象としたJN1.5クラスが新設。開幕3戦には7台前後がエントリーし、その半数を三菱コルト1.5Cが占める形に。戦いの方も、神雅広選手の駆るコルトが3連勝を飾っている。一方、総合優勝戦線では、第2戦愛媛で奴田原文雄選手、第3戦京都では石田正史選手が新旧のランサーエボリューションで勝利。第3戦終了時点のシリーズポイントでは奴田原選手がトップに立っている。



昨年に続いて京都のターマック戦を制した石田正史選手。この第3戦ではトップ4までランサーが独占。好調を維持している

SUPER TAIKYU SERIES

■スーパー耐久シリーズ エボリューションXが第2戦仙台で早くも勝利

デビューを果たした新型ランサーエボリューションXが注目を集めている今年のスーパー耐久。開幕戦鈴鹿では、中谷明彦選手組のエボリューションXがデビューウインまでと少しのところまでトラブルに巻き込まれてしまい、悔しくも2位に。エボリューションIXの和田久選手組が優勝を果たした。続く第2戦仙台では中谷選手組が完璧に戦ってエボリューションXでの初優勝を達成。2戦を終えシリーズポイントでも中谷選手組がトップに立ち、和田選手組が僅差で追う展開となっている。



開幕戦鈴鹿では安定したペースを貫いて4位に入った伊藤俊哉選手組。第2戦仙台では予選でクラッシュし、決勝出場断念を余儀なくされた

2008年2月~5月 海外/国内モータースポーツ主要結果表

RESULT

Table with 10 columns representing different rally series: ■FIA世界ラリー選手権 (WRC), ■FIAアジア・パシフィック・ラリー選手権 (APRC), ■全日本ラリー選手権, ■全日本ジムカーナ選手権 N4クラス, ■全日本ジムカーナ選手権 SA3クラス, ■全日本ジムカーナ選手権 SCクラス, ■全日本ダートトライアル選手権 N3クラス, ■全日本ダートトライアル選手権 SA2クラス, ■全日本ダートトライアル選手権 SC3クラス, ■全日本ダートトライアル選手権 Dクラス. Each column contains a list of race dates, locations, and winners.

Table for ■スーパー耐久シリーズ STクラス2, listing race dates, locations, and winners for various classes.

2008年序盤戦、各モータースポーツシーンをリードするCMSC選手!!

2008年シーズン序盤戦、各モータースポーツシーンで、CMSC (コルトモータースポーツクラブ) 選手が開幕から連勝するなどの活躍を見せています。以下、各全日本選手権やスーパー耐久シリーズで今季優勝や2位を獲得した11名のCMSC選手をご紹介します。



'08全日本ラリー選手権
CMSC鹿兒島・榎雅広選手 JN1.5クラス
第1戦 優勝、第2戦 優勝、第3戦 優勝(第3戦からCMSC鹿兒島所属)



'08全日本ダートトライアル選手権
CMSC大阪・吉村修選手 N3クラス
第1戦 優勝、第2戦 3位



'08全日本ダートトライアル選手権
CMSC群馬・荒井信介選手 SA2クラス
第1戦 優勝、第2戦 2位



'08全日本ジムカーナ選手権
CMSC愛知・鳥居孝成選手 SCクラス
第1戦 2位、第2戦 2位



'08全日本ダートトライアル選手権
CMSC広島・河内渉選手 Dクラス
第1戦 優勝、第2戦 優勝



'08全日本ダートトライアル選手権
CMSC千葉・北島広実選手 SA2クラス
第1戦 優勝、第2戦 優勝



スーパー耐久シリーズ2008
CMSC山形・阪口良平/加藤正将/小川日出生選手組 STクラス2
第2戦 2位
右写真、左:小川日出生選手、中:加藤正将選手、右:阪口良平選手



'08全日本ダートトライアル選手権
CMSC長野・宮入友秀選手 Dクラス
第1戦 2位、第2戦 2位



'08全日本ダートトライアル選手権
CMSC岐阜・橋田正文選手 SA2クラス
第1戦 2位、第2戦 4位

コルトモータースポーツクラブ26番目の支部
「CMSC東京」誕生!!

コルトモータースポーツクラブ26番目の支部となる「CMSC東京」が誕生しました。3月25日付で(社)日本自動車連盟(JAF)より正式にJAF登録クラブ(加盟)として承認されました。「CMSC東京」の活動フィールドはダートトライアルが中心です。石井宏和会長、入山幸次副会長兼事務局局長は、ともに長年三菱車でダートトライアル競技に参加。「CMSC東京」の先頭に立ち後進を育成、指導に努めるとともに「CMSC東京」所属選手としても活躍を見せてくれることでしょう。

■CMSC東京 概況
会長:石井 宏和
副会長兼事務局局長:入山 幸次
所在地:〒156-0057
東京都世田谷区上北沢5-8-2-301(石井宏和会長宅内)
TEL: 03-3302-8845
E-Mailアドレス:saiji03@yahoo.co.jp(入山 幸次)



日本全国に広がるCMSCネットワークは26支部。三菱車によるモータースポーツ活動を積極展開!

コルトモータースポーツクラブ(CMSC:木全誠会長)は、1964年10月にサーキットレースの三菱自動車ワークスチームとして設立され、JAFにクラブ登録された日本でもっとも長い歴史と伝統を持つモータースポーツクラブの一つ。現在、日本全国に広がるCMSCは26支部。ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ、レースの参加や競技会主催と様々な三菱車によるモータースポーツ活動を積極的に展開し、各地区のモータースポーツの牽引役として重要な役割を担っています。さあ、貴方も一緒にモータースポーツを楽しんでみませんか!

CMSC各支部一覧 2008年6月1日現在

支部名	会長	事務局	所在地	連絡先
道北	秋葉貴之	石塚慶子	〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1丁目17-1 カマタスポーツ内	TEL:0166-82-7122(石塚慶子)
道北	中村洋次	青沼達也	〒080-2473 北海道帯広市西3条南22丁目19 喫茶MONK内	TEL:0155-21-7202(青沼達也)
札幌	山田善之	山田善之	〒062-0912 北海道札幌市豊平区水車町3-4-1	TEL:011-812-7365(山田善之)
青森	鶴ヶ谷慶市	福原英治	〒036-1313 青森県弘前市大字賀田1-15-2	TEL:0172-82-2005(鶴ヶ谷慶市)
秋田	近藤隆行	須田 力	〒010-1423 秋田県秋田市仁井田字西瀬敷500	TEL:018-839-6918(近藤隆行)
岩手	工藤 守	藤澤祥久	〒028-3151 岩手県花巻市石鳥谷町江曾5-53-4 ミスタータイヤマン花巻北店内	TEL:0198-45-6670(斎藤勝則)
山形	小川日出生	渡邊利満	〒995-0033 山形県村山市橋岡町3-4-19 村山ビジョン内	TEL:0237-55-5610(小川日出生)
仙台	柿崎博史	佐藤政一	〒981-3111 宮城県仙台市泉区松森字斎宮17-1 kei's factory内	TEL:022-772-5521(柿崎博史)
福島	菅野昭雄	谷津良嗣	〒960-8071 福島県福島市東中央3-11	TEL:024-531-4451(谷津良嗣)
栃木	川口法行	川口法行	〒320-0005 栃木県宇都宮市横山3-18-5 ターマック・プロ内	TEL:028-600-5701(川口法行)
群馬	荒井信介	荒井信介	〒370-0071 群馬県高崎市小八木町1660 群馬三菱自動車販売(株)中古車部内	TEL:027-361-2222(荒井信介)
茨城	額賀誠史	額賀誠史	〒311-2116 茨城県鉾田市札1385-5	TEL:0291-39-5621(額賀誠史)
長野	上野陽志夫	高地 猛	〒385-0021 長野県佐久市大字長土呂778-21 (有)トップフィールド内	TEL:0267-67-8322(上野陽志夫)
埼玉	佐藤一彦	小山俊哉	〒343-0015 埼玉県越谷市花田3-3-7	TEL:048-971-7782(小山俊哉)
千葉	友野 智	友野 智	〒260-0824 千葉県千葉市若葉区若松町2150-1 千葉三菱自動車販売(株)千葉東店内	TEL:043-233-6551(友野 智)
東京	石井宏和	入山幸次	〒156-0057 東京都世田谷区上北沢5-8-2-301	TEL:03-3302-8845(石井宏和)
神奈川	北条雅之	岡根好晃	〒243-0022 神奈川県厚木市酒井3080 (株)コルツスピード内	TEL:046-220-5610(岡根好晃)
浜松	山内伸弥	荒津啓司	〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字西川149	TEL:0532-25-4196(荒津啓司)
愛知	吉野正則	小玉憲司	〒492-8243 愛知県稲沢市奥木塚町5 (株)小玉内	TEL:0587-21-8281(小玉憲司)
岐阜	三枝重光	澤田幸良	〒509-7203 岐阜県恵那市長島町正家1067-260	TEL:0573-25-6048(三枝重光)
大阪	岩下利勝	笹岡聰憲	〒534-0002 大阪府大阪市東区大東町2丁目11-20	TEL:06-6928-6566(岩下利勝)
広島	岩根つもる	平原和幸	〒738-0034 広島県廿日市市宮内2113-1-201	TEL:0829-38-4406(平原和幸)
鳥取	杉坂啓一	国谷益雄	〒690-0017 鳥取県松江市長津田2-11-38 西日本三菱自動車販売(株)山陰支店内	TEL:0852-23-1512(杉坂啓一)
香川	松原 宏	松原 宏	〒760-0011 香川県高松市浜乃町61-6	TEL:087-851-9499(松原 宏)
大分	佐藤克彦	姫野一彦	〒870-0252 大分県大分市大浜2-2-11 ラリーアートビット大分内	TEL:097-524-3751(姫野一彦)
鹿児島	西村謙一	山口 修	〒891-0123 鹿児島県鹿児島市御本町8-8 (株)スクエアリア内	TEL:099-201-5544(山口 修)

■もっとCMSCのことを知りたい方は、是非CMSCホームページ(<http://www.ralliart.co.jp/cmssc/>)をご覧ください。

「ラリーアートメンバーズクラブミーティング in 箱根ターンパイク」開催



5月11日(日)に神奈川県小田原市の「TOYO TIREターンパイク」のビューラウンジと駐車エリアにおいてラリーアートメンバーズクラブ(RMC)のイベント「ラリーアートメンバーズクラブミーティング in 箱根ターンパイク」が、クラブミーティングとして初めて開催され、会員が交流の時間を楽しく過ごしました。当日はあいにくの天候のため、ビューラウンジ内で受付を開始。今回のイベント限定の記念ステッカーと参加案内をお渡ししました。イベントは、主催のラリーアートメンバーズクラブ(RMC)井口事務局長、そして会場施設の協力をいただいた箱根ターンパイク株式会社の橋本社長のあいさつでスタートしました。ビューラウンジの正面に参加者全員が集まり集合写真を撮影。その後、交流の時間となりました。カーコンテスト、クイズラリー、サークルゲームなど、楽しいひとときを過ごすことができました。今回特別に展示したランサーエボリューションXグループNラリーカーは、キッズライド用として準備をしていますが、お子さま以外でも希望された方には運転席に座っていただき、隅々まで見て触っていただきました。最後の抽選会そしてじゃんけん大会も最後まで盛り上がりしました。今後もイベントなどを通じて会員の皆様とお会いできることを楽しみにしています。



仲良く夫婦で御参加いただきました



大観山のビューラウンジではとてもつろぎました!



じゃんけん大会も盛り上がりしました



じゃんけん大会の賞品はラリーアートのTシャツなど盛りだくさん



展示されたグループNラリーカーで未来のコ・ドラがお昼寝中...



あいにくの天気でしたがクイズラリーも楽しんで頂けました



カーコンテストの1位賞品はなんとTOYOタイヤでした!



カーコンテストの2位賞品はラリーアートの腕時計!

RALLIART・PIT ラリーアートビット

「ラリーアートビット神戸」オープンセレモニー開催 増岡浩選手、バリダカトークライブも盛況

5月17日(土)、ラリーアートパーツやグッズを専門に展示・販売する「ラリーアートビット神戸」がオープンしました。「ラリーアートビット神戸」は、兵庫三菱自動車販売(株)神戸店内に、モータースポーツファンや一般ユーザー向けに競技用パーツやチューニングについての相談にも応じる専任体制をとっています。オープン当日は、ダカールラリーに出場している「チーム・レプソル三菱ラリーアート」の増岡浩選手やプロ野球解説者の掛布雅之氏を招き、報道関係者、

多くのお客様、関係者来場のもと、盛大にオープニングセレモニーを行いました。当日は「バリダカトークライブ」を開催。訪れたおよそ100名のお客様は、増岡選手が語るセントラルヨーロッパラリー(バリダカ代替イベント、4月開催)の参戦体験談や、三菱パジェロのバリダカ参戦ヒストリーなどを熱心に聞き入っていました。また、イベント後半にはスペシャルゲストとして掛布氏も登場。掛布氏が監督として経験されたラリーの話や、ランサーエボリューションXの魅力などを独自の視点で楽しく語っていただきました。また当日は、ダカールラリーのパジェロエボリューション(MPR13)や、ランサーエボリューションXグループN仕様ラリーカーも特別展示しました。その他、スポーツプラザやアルムホールなどの展示やラリーアート商品の特別販売を実施。会場は終日多くのファンで賑わいました。



ラリーアートビット神戸
〒651-0072 兵庫県神戸市中央区臨浜町二丁目9番1号 兵庫三菱自動車販売(株)神戸店内
TEL 078-252-7125 FAX 078-232-7123
<http://www.hyogo-mitsubishi.com/start01.htm>

ラリーアートビット神戸では、ラリーアートブランド商品、ラリーアートスポーツパーツ、ドレスアップパーツの展示・販売を行い、モータースポーツイベントやラリーアート商品の情報発信基地として、サービスの充実化を推進していきます。



増岡選手、掛布氏のバリダカトークライブも盛り上がりしました。



店長の暮部さん(左)とスタッフの中川さん。

EVENTS INFORMATION



クルマの学校 スポーティードライビングコース開校

2008年6月1日(日)三菱自動車工業 岡崎工場内にて「クルマの学校 スポーティードライビングコース」が開校されました。当日は天候も良く、171名応募の中当選された24名の参加者の方は、ジムカーナ講習や、普段は体験できないテストコースのコンボイ走行、ブレーキの急制動やスキットパッド(低μにした路面)を使用した「ABS有車」、「ABS無車」を体験しABSの効果を実感するなど、一日中貴重な体験をしていただきました。



オイルのチェックの方法も教えていただきました。貴重なスキットパッドの走行では、ABSの特徴を確認しました。

ランサーエボリューションX用スポーツパーツ発売



ドイツ・ビルシュタイン社とアイバハ社の採用によりスポーティな足を実現

「スポーツサスペンションキット」

信頼の足、ドイツ・ビルシュタイン社とアイバハ社と共同開発した車高調整式サスペンションキットです。ステアリングへの路面状況のフィードバックが良く、安心感&自由感を向上させます。不整地における走行でも車体のフラット感を得ることが可能です。ロール剛性を向上したことにより、旋回性も各種操作に対するリニアな挙動変化が得られ、操舵初期のプッシュアンダーも低減。操安面ではトレース性およびリニアリティ、さらには乗り心地も向上しました。ヘルパースプリング付き。購入日から1年間、または20,000kmの品質保証付き。



スポーツサスペンションキット

高速域でのダウンフォース向上とオイルクーラー冷却性能向上

「スポーツフロントアンダースポイラー」、「スポーツフロントバンパーインテークダクト」

「スポーツフロントアンダースポイラー」は、実車風洞試験装置によるテストでダウンフォースの向上を確認した、スポーツ感溢れるデザインのアンダースポイラーです。標準フロントバンパー下部へ装着します。スポーツフロントバンパーインテークダクトとの同時装着で、さらに整流効果と高速安定性を高めます。「RALLIART」エンブレム付き。CFRP（ウエットカーボン）製。

「スポーツフロントバンパーインテークダクト」は、フロントバンパーをさらにアグレッシブにデザインします。実車風洞試験装置によるテストを重ね、高速域での整流効果、外側の張り出しある開口部によりエンジンオイルクーラーおよびSSTオイルクーラーの冷却性能を向上させることを確認しています。空力バランスを考え、スポーツフロントアンダースポイラーとの組み合わせを推奨します。CFRP（ウエットカーボン）製。両商品とも購入日から1年間、または20,000kmの品質保証付き。



スポーツフロントアンダースポイラー



スポーツフロントバンパーインテークダクト

ブレーキコントロール性能が向上

「スポーツブレーキパッドセット」



スポーツブレーキパッドセット

素材に鳴きやローター攻撃性を抑えたロースチール材のノンアスベストタイプを使用したスポーツブレーキパッド(街乗り〜ワインディングロード用)です。コントロール性、車両特性とのバランスを重視して開発し、高い制動力と耐フェード性を確保しています。初期制動から効きが得られ、制動も安定し、コントロール性にも優れています。また、ローター攻撃性を抑えたことによりブレーキローター磨耗粉を低減し、鉄粉がホイールやボディなどに錆び付きにくいのが特徴。ブレンボキャリパー装着車用。許容温度域は〜550℃。

■ランサーエボリューションX用スポーツパーツ内容

商品名	商品番号	税込価格(本体価格)	備考
スポーツフロントアンダースポイラー	RA651126P1	84,998円(80,950円)	CFRP製
スポーツフロントバンパーインテークダクト	RA624601S1	59,850円(57,000円)	CFRP製、左右各1個入り
スポーツサスペンションキット	RA624A01S1	399,000円(380,000円)	車高調整式、ショックアブソーバー&スプリングのセット
スポーツブレーキパッドセット	RA460572P1	31,500円(30,000円)	フロント用(ブレンボキャリパー装着車用)
スポーツブレーキパッドセット	RA460584P1	29,925円(28,500円)	リア用(ブレンボキャリパー装着車用)

※価格は、2008年6月現在の取付工賃含まない希望小売価格



三菱自動車「コルトラリーアートバージョンRスペシャル」を発売

三菱自動車は、スポーツドライビングを楽しめる高性能コンパクトスポーツ「コルト ラリーアート バージョンR」に、ボディ剛性を大幅に高める溶接技術「連続シーム溶接」を採用した特別仕様車「コルト ラリーアートバージョンR スペシャル」(2,320,500円、車両本体、消費税込)を設定し、5月27日(火)から全国の系列販売会社より発売しました。「コルトラリーアートバージョンRスペシャル」は、さらに卓越した操縦安定性を実現すべく、新たなボディ接合手法「連続シーム溶接」を採用しています。これは、ドア開口部4箇所全てのボディパネル貼り合わせ部分の全周を、通常の自動化されたスポット溶接に加えて、熟練工の手作業による「連続シーム溶接」をその上から施したもので、ベースボディのコルト ラリーアートバージョンRに比べて剛性が向上しています。これにより、ドライバーの意図に忠実なステアリングレスポンスとトラクション性能を実現しています。

■ラリーアートパーツ2008フルラインナップカタログ請求方法

ラリーアートパーツを掲載したカタログをご希望の方は、8月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。
宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」

■ラリーアートCOLLECTION 2008 SPRING/SUMMER請求方法

カタログをご希望の方は、8月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。
宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」

編集後記

増岡選手は大の鉄道好き。先日、鉄道雑誌「レイルマガジン」の企画で、増岡選手が本物の機関車を運転したのですが、その時の嬉しそうな顔といったら。。。鉄ちゃんとしての真髄を垣間見ました。(小湊)

ラリーアートジャーナル Vol.122

発行:2008年6月13日
編集:株式会社ラリーアート
〒108-0014 東京都港区芝5丁目3番7号
徳栄ビル3階
TEL:03-3798-3971 FAX:03-3798-3979



請求券
有効期限:2008年6月31日
ラリーアートジャーナルVol.122